

『教育するという営み』



【子ども達のために】

後志教育研修センターは後志管内 20 市町村が管内の教職員、社会教育担当者等の資質・能力の向上を目指した研修講座事業等を協働で実施することを目的として設置されたものであります。昭和 50 年に発足し、令和 5 年度で設立 48 年目を迎えます。各市町村教育委員会をはじめ、北海道教育庁後志教育局、各教育関係機関や研究団体のご支援とご協力により、本年度の研修講座開催の体制を整えることができました。

次代を担う子ども達が多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることを目指して、学習指導要領の理念である社会に開かれた教育課程の下、個別最適な学びと協働的な学びに一体的に取り組み、改訂の大きなテーマである主体的・対話的で深い学びの実現に向けて学校現場との連携を一層密にした授業改善を促す研修講座となるよう策定しました。

【昨年度の実績と本年度の基本的な考え方】

依然として続くコロナ禍の厳しい状況下ではありますが、昨年度の受講者は 654 名の参加がありました。これは小樽後志の全教職員数の凡そ 49%にあたります。大事にしたいのはその数ではなく、その質であります。受講者から「参加して良かった」「明日からの授業に元気がもたらえた」等という声をたくさん聞きたいと考えています。本年度より導入される新たな教員研修制度に伴い、真摯に研修に取り組む教職員を当センターは万全を尽くして応援したいと考えております。

本年度の基本的な考え方は、感染対策を講じながら、授業実践を通じた集合研修を継続するとし、次のように実施しますので、ご理解をよろしくお願い致します。

- ① 全ての講座を午後からの半日日程とする(13:00~16:00)
- ② 基本的には集合研修とするが、感染状況に応じて対応していく
- ③ 学校での授業実践は感染状況を見ながら判断する

【教育するという営み】

これからの学校教育は、ICT 活用が学びの大きな有効手段であり、間違いなくこれまで以上にウエイトを占めてきます。ICT を上手く活用しながら、教育を推進することが大切になります。ここで重要なことは、どんなに科学技術が進歩しても、教育という営みが、人間が人間をより良い人間に育てていく営みである限り、教育する人間の人の柄や能力・態度が教育をうける者に影響してくるのは否定できないということです。それは、教師の生き方そのものが子どもにとって鏡になるからです。「教育する」とは人としての感情を吹き込むこと、単なる知識の教えではなく、人間性を育むことにあります。子どもの心に届くメッセージを伝えることであります。

コロナ禍を経たこれからの学校教育では、人が人を育む活動に戻ることが大切になってきます。学校教育の本質は「流行」にあるのではなく、「不易」にあります。これまではいかにして集まらないかを考えてきましたが、これからは、いかにして会同・集合して、人と人とのつながりを戻すかを考える時、その方法を模索する時であります。

【むすびに】

結びになりますが、講師陣の皆様には厳しい状況下にもかかわらず、本当に快く講師を引き受けていただき、授業実践に生かせる研修資料を準備していただいたことに感謝申し上げます。センター職員一同、本年度も多くの教育関係者の皆様が受講されるのを心よりお待ちしております。

令和 5 年 4 月

後志教育研修センター
所長 長谷川 誠